

実施主体：東京都、東京港埠頭(株)及び(一社)東京港運協会  
 協力：国土交通省関東地方整備局  
 実施ターミナル：大井1・2号ターミナル及び大井3・4号ターミナル  
 参加店社：(一社)東京都トラック協会海上コンテナ専門部会  
 実施時期：令和4年8月～

【参考：位置図】



## <CONPASを活用した予約制事業の目的>

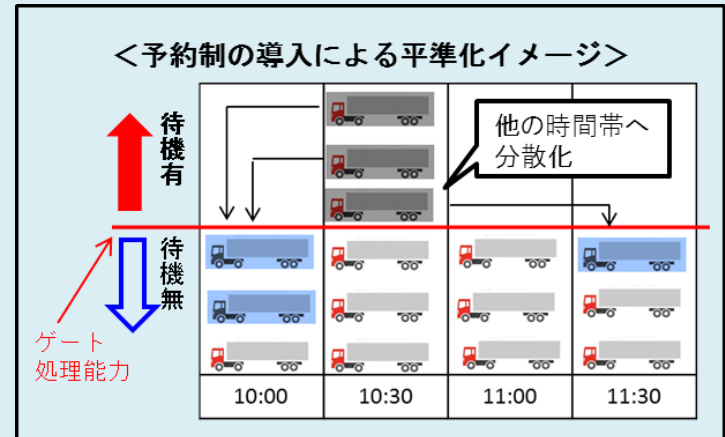
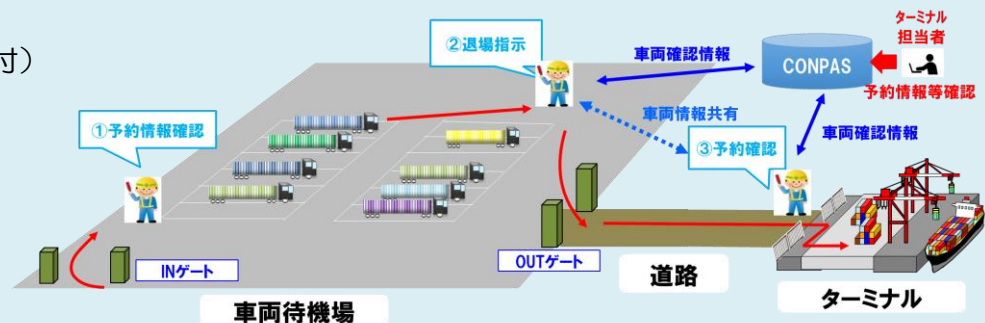
- CONPASを活用した搬出入予約制の導入を推進し、特定の時間帯に集中して来場するコンテナ搬出入車両を分散化
- トラックの到着時間の分散化により、ゲート前待機時間の削減
- ターミナル側も事前情報が取得できるため、効率的な荷役が可能



## ゲート前混雑の解消を目指す

### 予約制の一連の流れ

- ① 予約車は車両待機場に入場し、予約情報の確認(受付)  
 ※ゲート前混雑を避けるために車両待機場を活用
- ② 誘導員の指示によりターミナルへ移動
- ③ ターミナル前で予約情報を確認し、ゲートに入場  
 ⇒CONPASを通じて予約情報や車両の到着状況等をリアルタイムに確認が可能



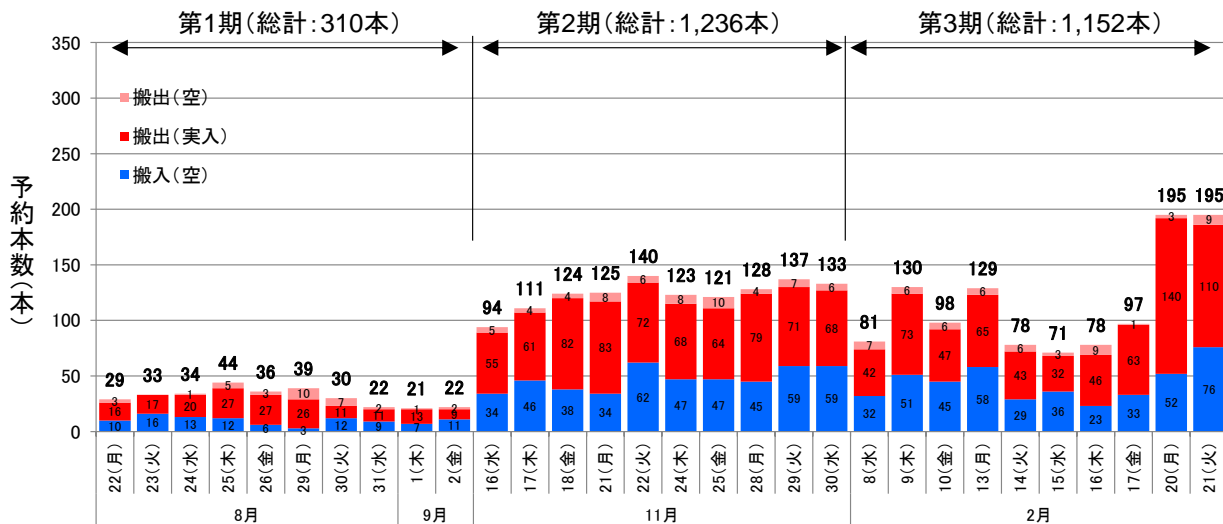
# 東京港におけるCONPAS®を活用した予約制事業実施概要②

- 営業コンテナを対象とし、CONPASを活用して安定的に運用していくことを目的に実施（段階的に規模拡大）
- 実施フロー等について一連の動作確認のほか、待機場を活用したCONPASの運用ルールや動線を検証

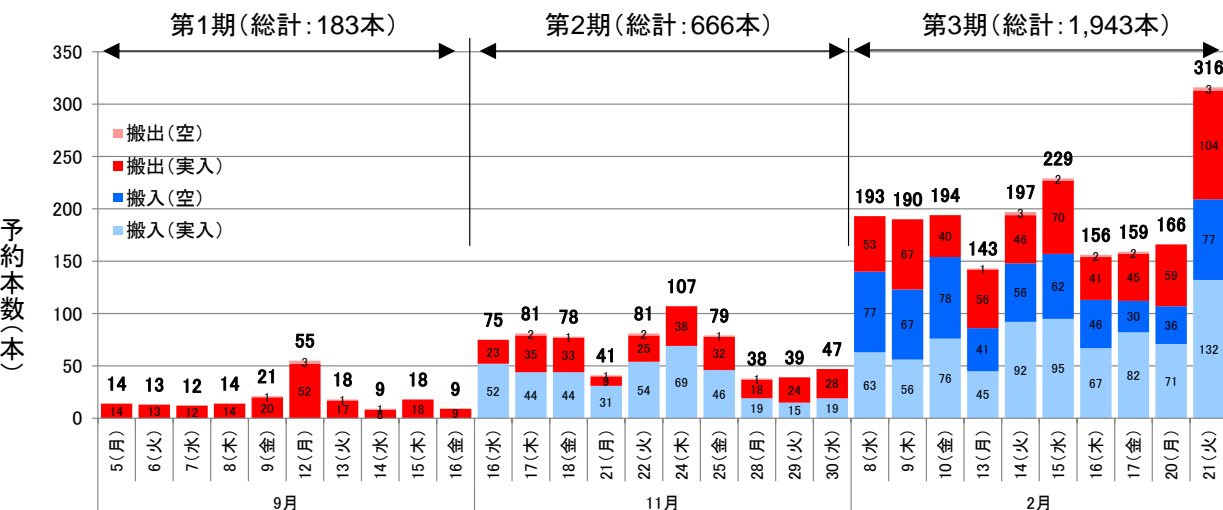
期	場所	期間	参加登録 陸運店社数 (台数)	実施種別	予約台数	予約枠設定	予約本数 (期間内総計)
第1期	大井 1・2号 ターミナル	令和4年8月22日 ～9月2日 ※平日のみ10日間	18店社 (366台)	①搬出 (実入・空) ②搬入 (空)	①8台/h ②5台/h	60分枠・6枠/日 (基本) ①8時～9時※1 ②9時～10時 ③10時～11時 ④13時～14時 ⑤14時～15時 ⑥15時～16時	310本
	大井 3・4号 ターミナル	令和4年9月5日 ～9月16日 ※平日のみ10日間		①搬出 (実入・空)	①15台/h		183本
第2期	大井 1・2号 ターミナル	令和4年11月16日 ～11月30日 ※平日のみ10日間	47店社 (1319台)	①搬出 (実入・空) ②搬入 (空)	①20台/h ②10台/h	昼ゲートオープン実施日のみ、 以下の予約枠を設定※2 ⑦11時～12時 ⑧12時～13時	1236本
	大井 3・4号 ターミナル			①搬出 (実入・空) ②搬入 (実入)	①15台/h ②15台/h		666本
第3期	大井 1・2号 ターミナル	令和5年2月8日 ～2月21日 ※平日のみ10日間	56店社 (1510台)	①搬出 (実入・空) ②搬入 (空)	①35台/h ②15台/h	※1 ゲートオープン時間を踏まえ 車両待機場から退場指示 ※2 大井1・2号：第2～3期の 火・水曜日 大井3・4号：第1～3期の 火・水曜日	1152本
	大井 3・4号 ターミナル			①搬出 (実入・空) ②搬入 (実入・空)	①15台/h ②35台/h		1943本

# 【CONPAS®を活用した予約制事業実施結果】 予約本数の推移

- 予約本数は実施回数を重ねるにつれて増加傾向。参加店社数や実施種別の拡大等が要因
- 引き続き、ターミナル事業者や陸運事業者と協力し予約本数増加に向けた取組を推進



大井1・2号ターミナル予約状況



大井3・4号ターミナル予約状況

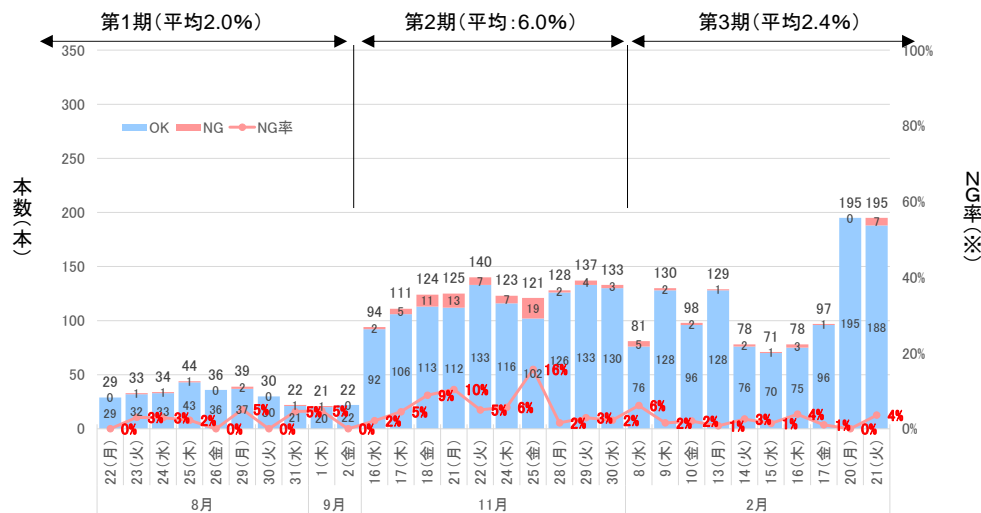
## 【予約本数増加要因】

- ① **参加対象店社数の拡大**  
 (一社) 東京都トラック協会 海上コンテナ専門部会の、役員会・業務委員会 店社から部会加盟全店社に拡大
- ② **実施種別の拡大**  
 陸運事業者のニーズを踏まえ、予約対象コンテナ種別を段階的に拡大
- ③ **対象車両の拡大**  
 陸運事業者の営業実態を踏まえ、参加対象車両を自社車両のみから備車も追加
- ④ **仮予約制度※の導入**  
 陸運事業者の運用実態を踏まえて仮予約制度を導入することで、計画的な配車環境を実現

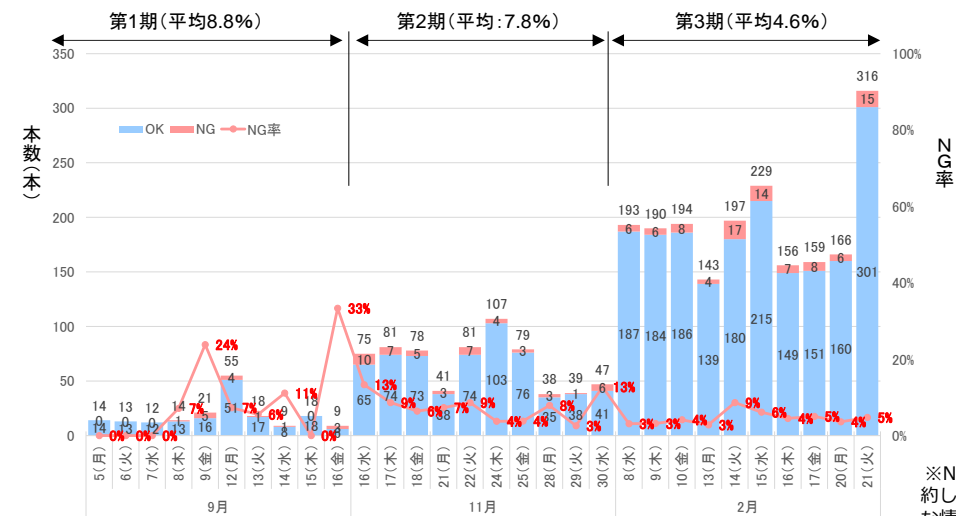
※ 通常、CONPAS予約(搬入)はコンテナ番号を必要とするが、コンテナ番号が配車直前に決定するケースもみられる。仮予約制度は、ターミナル協力の下、コンテナ番号決定前にブッキング番号等で予約を仮取得する制度をいう。なお、ターミナル来場までにコンテナ番号の登録(追加)は必要

# 【CONPAS®を活用した予約制事業実施結果】陸運事業者の習熟

- 正確な予約情報を入力せずに来場するCONPAS車両（NG車両）は、実施回数を重ねるにつれて減少傾向  
陸運事業者への説明会開催や運用手引き資料配布により、CONPASシステム操作や運用ルールが習熟
- 正確な予約情報はターミナル内の荷役効率化に必要なため、引き続き、陸運事業者の習熟に向けた取組を推進



大井1・2号ターミナル



大井3・4号ターミナル

## 【習熟に向けた取組】

- ① 事業開始前に説明会の実施及び運用手引きの配布
- ② 間違いやすいポイントを事例集にとりまとめて周知
- ③ CONPAS事務局やヘルプデスクを配置し、運用ルールや操作方法的個別問合せに対応

## 【陸運事業者ヒアリング※結果】

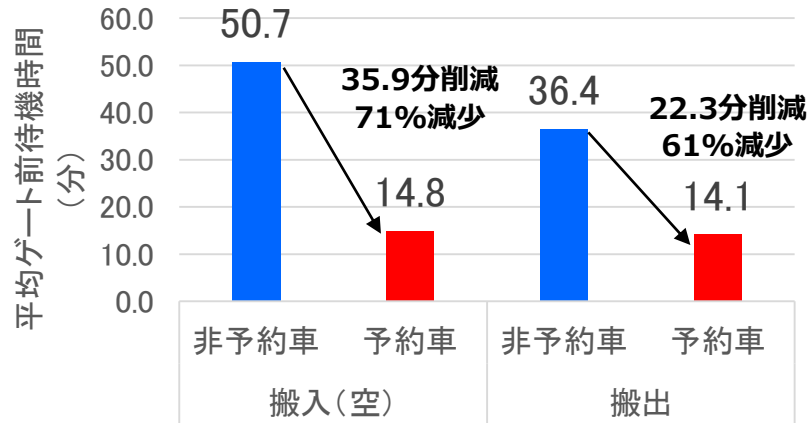
- CONPASに関する習熟度について22社が意見
- そのうち21社が「CONPAS操作の習熟が進んでいる」と回答

※ 予約制事業に参加した店社から32社を抽出してヒアリングを実施

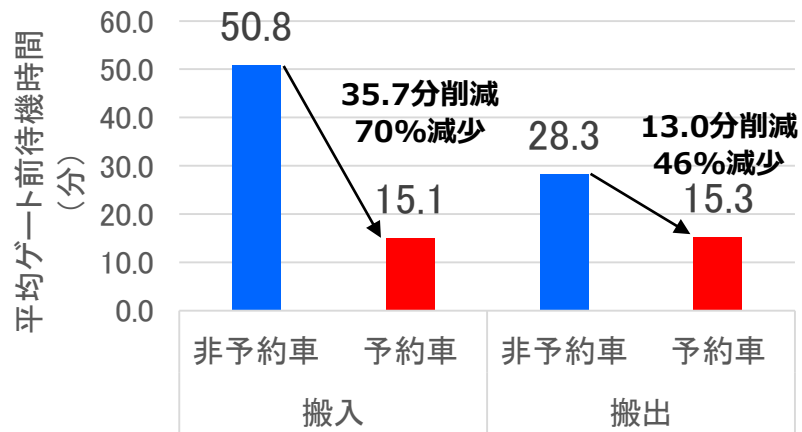
※NG率は、CONPASを予約した全車両のうち、正確な情報を入力せずにターミナルに来場した車両の割合

# 【CONPAS®を活用した予約制事業実施結果】ゲート前待機時間の削減

- 予約制事業を通じた平均ゲート前待機時間※は、非予約車と比較し予約車の方が短縮され、CONPASの効果を確認
- 引き続き、ターミナル事業者及び陸運事業者双方がメリットを享受できる取組を推進



大井1・2号ターミナル

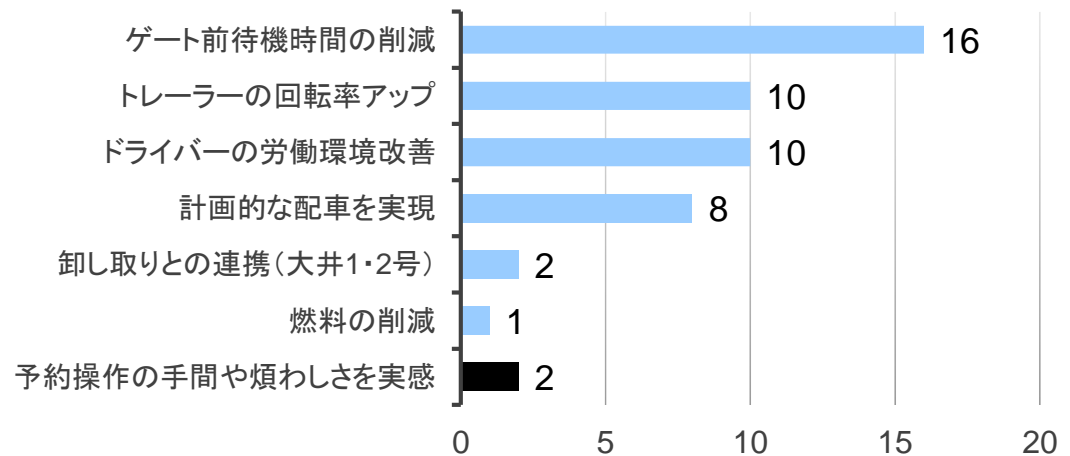


大井3・4号ターミナル

## 【陸運事業者ヒアリング※結果】

- CONPAS利用により実感したメリット・デメリットについて、複数回答も含め49件の意見あり
- そのうち47件の意見について、「CONPAS利用にメリットを実感」と回答あり

※ 予約制事業に参加した店社から32社を抽出してヒアリングを実施



※第1期～第3期それぞれの平均ゲート前待機時間の平均値を示す。  
 ※予約車の平均ゲート前待機時間は車両待機場からゲート前までの移動時間も含む



# 予約制事業参加陸運事業者からの主な意見と対応及び今後の予定について

## 【参加陸運事業者からの主な意見】

### 搬出入予約制度について

- 予約をすることでコンテナの搬出入に係る大体の時間が読めるようになり、その後の予定（配車）が立てやすかった。
- 予約枠が埋まっていることが多かった。予約枠を増やせばさらに利用が増える。
- 予約枠設定時間について、現在の1枠60分のルールで特に負担なく配車を実施できた。

#### ■意見を踏まえた対応

- 実施状況を踏まえて、第2期・第3期と予約枠数・対象種別・対象店社等について段階的に規模を拡大

### CONPASについて

- 配車事情で直前の予約取得や変更が可能な点に使いやすさを感じた。手引きやヘルプデスクもあり、わかりやすかった。
- 「この時間に必ず訪れるからどのコンテナを搬入するかは直前に知らせる」といった予約があると利用しやすい。
- 搬出可否情報がCONPAS上で確認できることで、ゲートトラブルの減少や配車環境改善という面での効果が期待できる。

#### ■意見を踏まえた対応

- 第2期からブッキング番号等による仮予約制度（コンテナ番号事後入力）を実装
- 第3期からCONPAS-Colins<sup>※</sup>連携により、搬出可否情報の確認機能を実装

※Colins：国土交通省が運営する、ターミナルオペレーター、荷主、海貨事業者、運送事業者等の関係事業者間で、一元的にコンテナ物流情報を共有化するための会員登録制のシステム。

### 今後の要望について

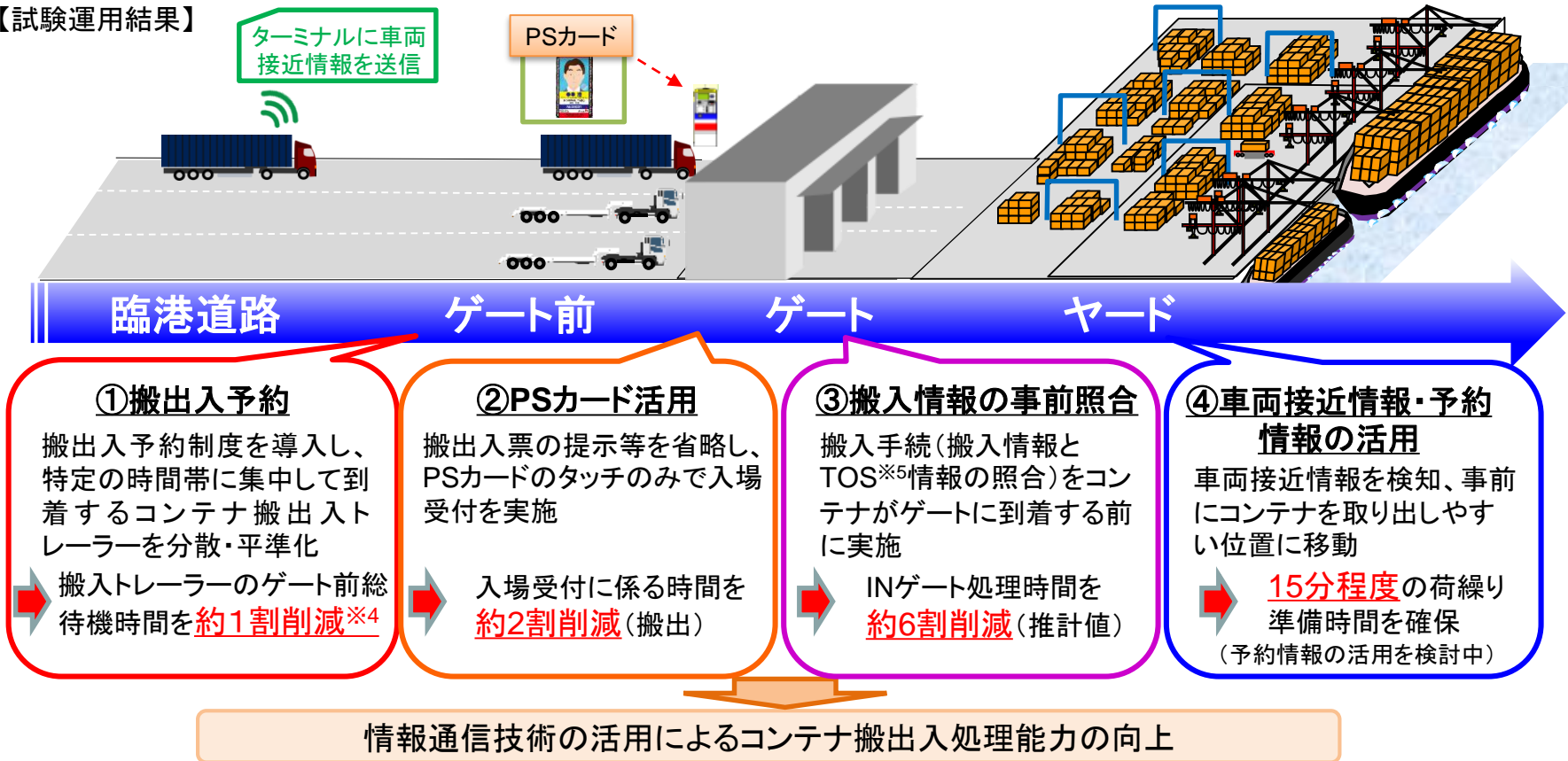
- ゲート前待機時間が削減された場合でもヤード内で待機することもあるため、ターミナル内の荷役効率化を実施してほしい。
- 予約制事業に参加できて、かなりメリットを感じている。今後東京港全体に広がっていくと利便性がさらに高まると思う。

## 【今後の予定について】

- 東京都において、東京港におけるコンテナターミナルの機能強化に向けて、CONPASとターミナルシステム（TOS）との連携促進に向けた補助金を創設し、ゲート手続きやヤード内荷役作業の効率化に向けた支援を実施しています。
- また、令和4年度の実施結果やご意見等を踏まえ、令和5年度は予約制事業の実施ターミナルを拡大するとともに、実施ターミナルにおける予約制の取組を支援していくことで、CONPASを活用した予約制の安定運用と展開を進めてまいります。

- CONPAS® ※1は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることで、コンテナ物流の効率化及び生産性向上の実現を目的としたシステム。
- ゲート前混雑が深刻化する中、情報通信技術の活用により、ゲート手続やヤード内荷役作業の効率化を実現するため、横浜港において試験運用を実施。
- 横浜港で2021年4月より本格運用※2を開始。
- 東京港においても2022年8月からCONPAS®を活用したコンテナ搬出入予約制事業の取組※3を開始。

## 【試験運用結果】



※1 CONPAS: Container Fast Pass の略

※2 「搬出入予約機能」「PSカード活用した受付機能」「搬入情報の事前照合機能」を常時運用すること

※3 東京港においては【搬出入予約機能】を活用して取組を開始(「PSカード活用した受付機能」「搬入情報の事前照合機能」の活用も今後検討)

※4 搬入トレーラーの14%が CONPASで予約を行った場合

※5 ターミナルオペレーションシステム